

「おきなわSDGsアクションプラン」 骨子（案） とりまとめの経緯等について



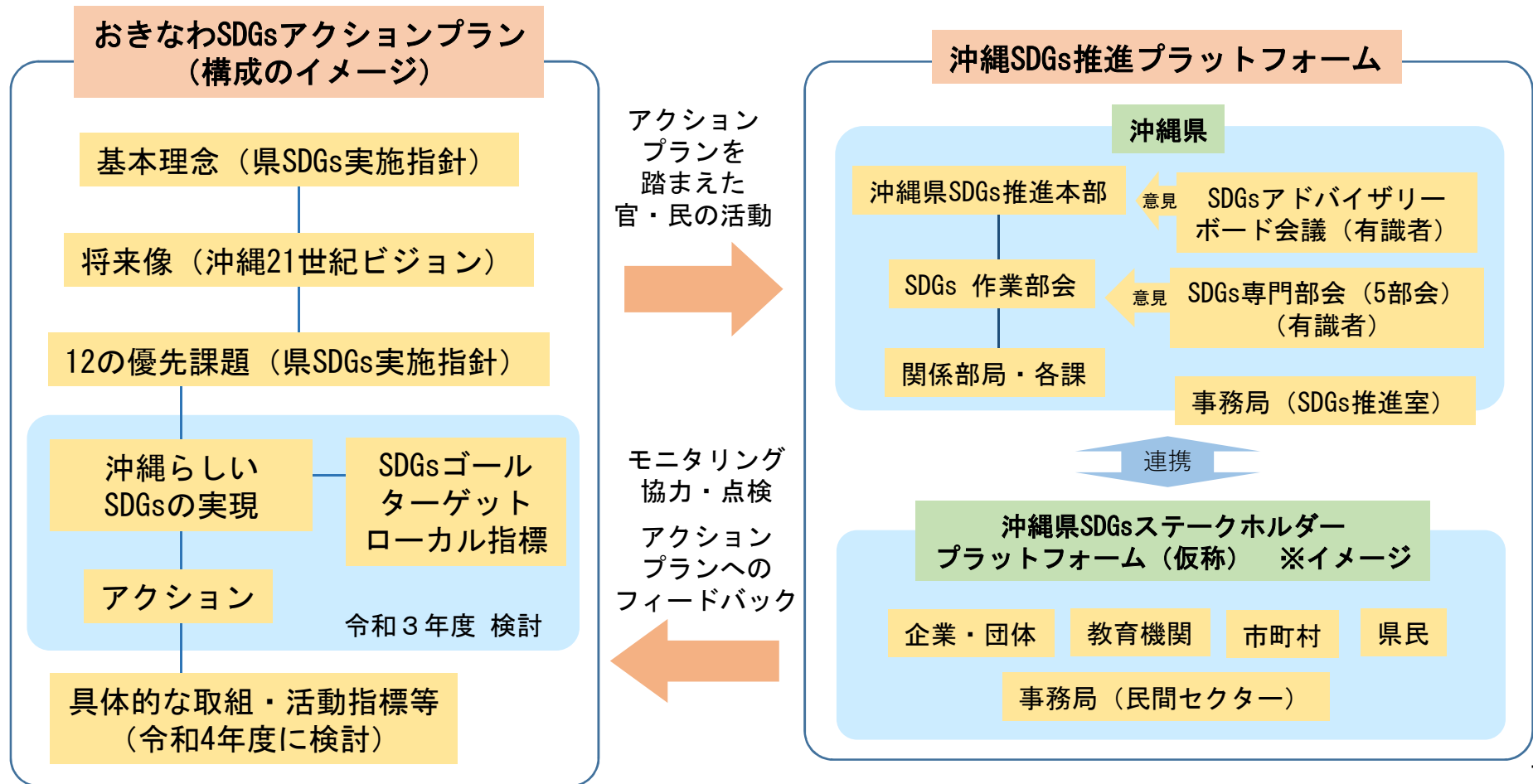
沖縄県企画部
企画調整課 SDGs推進室

印刷の際は
両面印刷が
見やすいです。

「おきなわSDGsアクションプラン」の位置づけ

「沖縄県SDGs実施指針」に基づき、様々なステークホルダーとともに全県的なSDGsの浸透と主流化を目指すため、優先課題及びSDGsゴールに対応した具体的な目標と達成度を測るモニタリング指標等を盛り込んだ「おきなわSDGsアクションプラン」を策定する。

アクションプランのモニタリング指標に基づき、SDGs達成に向けた進捗状況等を、多くの人々の参画の下、透明性をもって点検し、フィードバックを図る。



県民意見募集
インプット可能な
要素の情報収集

- ・ 県民アンケートの実施（9/27～12/3募集、1,686件回答）
- ・ 沖縄21世紀ビジョン ・パブリックコメント等の県民意見
- ・ 新たな振興計画（素案）及び中間とりまとめ（案）等
- ・ 若者の意見収集（SDGs OKINAWAグランプリ2021, 高校生の会議等）
- ・ 県政出前講座等のSDGs研修及び勉強会のアンケート
- ・ 企業・団体が主体的に収集した意見（イベント、アンケート）等

骨子に関する
意見収集

- ・ 骨子（たたき台）の作成（ゴール、ターゲット、ローカル指標を除く）
- ・ SDGsアドバイザーボード会議の意見収集（12/16）
- ・ SDGs専門部会の意見収集（12/20～12/27）
- ・ 骨子案のとりまとめ
- ・ 関係団体、市町村等の意見照会（1月頃想定）

素案に関する
意見収集

- ・ 意見聴取結果をもとに、素案を作成（ローカル指標等を設定）
- ・ SDGs作業部会における状況報告等
- ・ 沖縄県SDGs推進本部会議における状況報告等（2月頃想定）
- ・ 関係団体、市町村等の意見照会（2月頃想定）
- ・ SDGs専門部会の意見収集（2月頃想定）
- ・ SDGsアドバイザーボード会議の意見収集（3月頃想定）
- ・ SDGs作業部会のアクションプラン（案）の確認（3月頃想定）
- ・ アクションプラン（案）の決定（3月末）

最終化

- ・ パブリックコメント（3～5月頃想定）
- ・ SDGs作業部会による確認
- ・ 沖縄県SDGs推進本部におけるアクションプランの決定（6月頃）

アクションプランの目的、基本理念、将来像、優先課題

項目	内容
<p>沖縄らしいSDGs 基本理念</p>	<p>平和を求めて時代を切り拓き、世界と交流し、ともに支え合い誰一人取り残さない、持続可能な『美ら島』おきなわの実現</p>
<p>2030年 沖縄の将来像</p>	<p>将来像 1 沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島 将来像 2 心豊かで、安全・安心に暮らせる島 将来像 3 希望と活力にあふれる豊かな島 将来像 4 世界に開かれた交流と共生の島 将来像 5 多様な能力を発揮し、未来を拓く島</p>
<p>優先課題</p>	<p>(People 人間)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①性の多様性（LGBT 等）、障がいの有無、国籍など、互いの違いを認め合い、一人ひとりが大切にされ、あらゆる場所で活躍できる社会の実現（多様性の尊重、個人の尊厳） ②医療・福祉の充実、健康長寿と生きがい、子どもを貧困から守る子育てしやすい暮らし ③地域への誇り（しまくとぅばの普及・推進等）と夢・目標をもてる学びの確保、教育の充実 <p>(Prosperity 繁栄)</p> <ol style="list-style-type: none"> ④基幹産業として持続可能で責任ある観光（サステナブル／レスポンシブルツーリズム）の推進、観光との連携・相乗効果等も活用した産業振興（農林水産業におけるブランド化等）、県経済の基盤となる安定的な雇用 ⑤日本とアジア・太平洋の架け橋となる物流・情報・金融の拠点 ⑥気候変動に適応する強靱なインフラと交通網の整備 <p>(Planet 地球)</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑦多様な生物・生態系や世界自然遺産を含む自然に囲まれた環境の保全、エコアイランドの実現、自然と調和したライフスタイル <p>(Peace 平和)</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑧基地から派生する諸問題の解決の促進、平和を希求する沖縄として世界平和への貢献・発信 ⑨共助・共創型の安全・安心な社会の実現 <p>(Partnership パートナーシップ)</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑩ユイマール（相互扶助）の継承、人の和・地域の和 ⑪地域・世代・分野・文化等を超えた多様な交流と連携の創出 ⑫世界の島しょ地域における技術・経験の共有と国際貢献・グローバル・パートナーシップ

優先課題①

性の多様性（LGBT等）、障がいの有無、国籍など、互いの違いを認め合い、一人ひとりが大切にされ、あらゆる場所で活躍できる社会の実現（多様性の尊重、個人の尊厳）

No	沖縄らしいSDGsの実現	実現に向けたアクション
1	家庭、職場、学校、地域といったあらゆる場面でジェンダー平等、男女の機会均等が実現している。	<ul style="list-style-type: none"> 性別による役割・仕事といった決めつけを無くしていく。 働き方改革として、ジェンダーレスに取り組む。
2	性の多様性が理解・尊重される社会が実現している。	<ul style="list-style-type: none"> 全ての人の性のありようを尊重し、差別や暴力のない人権が尊重される社会をつくることを県民全体で共有する。 偏見・差別やあらゆる種類の暴力を許さない。 地域活動、学校教育、家庭教育、職場などのあらゆる場面で、性の多様性について理解・尊重する機会を増やす。
3	障害のある方が住みやすく、生き生きと活躍できる社会が実現している。	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインの普及やバリアフリー化を促進する。 障害のある方の雇用促進と働きやすい職場環境づくり等に取り組み、社会参加を促進する。
4	様々な国の生活・文化が理解され、外国の方にとって住みやすい地域が形成されている。	<ul style="list-style-type: none"> 様々な国の歴史や文化に触れる機会に参加する。 次世代の沖縄を担う若者・子ども達が様々な国や地域の文化を理解する教育に取り組む。 国籍に限らず地域の住民が地域課題解決に参画できる機会をつくる。 多言語表示のサイン等を含めた様々な場面で外国語対応を充実する。 教育、生活等におけるサポートをパートナーシップにより促進する。
5	ディーセントワーク（働きがいのある人間らしい仕事）が実現し、誰もが生き生きと活躍できる社会が実現している。	<ul style="list-style-type: none"> ディーセントワーク（働きがいのある人間らしい仕事）の理解を広げる。 ディーセントワークに取り組む企業・団体が評価される環境をつくる。

(参考) おきなわSDGsアクションプラン(骨子)の検討におけるインプット情報

定量的情報(県民アンケート)

『【問2】沖縄の将来に、何を残していきたいか。』の回答者数及び回答率

④多様性を受け入れる県民性(n=314) 18.6%

『【問3】沖縄の将来において、何を变えていきたいか。』の回答者数及び回答率

⑤ジェンダー平等(n=192) 11.4%

⑥障がい者に対する理解(n=229) 11.4%

⑦性の多様性に対する理解(n=185) 11.0%

定性的情報(県民アンケート、新たな振興計画関連、各種分野別計画等)

●県民アンケートでは、下記の意見を確認できた。

<ジェンダー・機会均等>

「性役割を緩和し、制度、社会的地位、所得などにあらわれている男女の不平等を是正する。ジェンダーやセクシアリティにかかわらず人権を尊重する沖縄にする。」

「ジェンダーの平等と、性の多様性に対する理解は、もっと、上の人達が、固い頭にならないで、もっと柔軟な考えを持って、取り組まなければいけない事だと思います。」

<性の多様性>

「性の多様性については、同性のパートナー制度を普及する。」

「差別禁止や人権尊重を盛り込んだ条例を作る。性の多様性の尊重に関する条例も必要。」

「多様性を目指すなら、多様性のある県の職員、地域活動をもっと積極的に行うことが望ましい。」

<障がいの方>

「障害者に必要なバリアフリーの理解」

「障害者やジェンダーの方々との関わりをもてらいたいと思います。」

「教師に、障害者への教育方法や支援方法をもっと学んで欲しい。」

「障害や多様性を受け入れ、平等に働く機会を作ることの出来る社会の実現・・・障害者やジェンダーを雇用したり、就労の機会を与えるための仕組み作り、現在障害者施設で作った製品を買取り、販売している。今後も拡大を図っていく。障害や多様な生き方をする方への雇用や就労の促進を図りたい。」

<外国の方>

「外国人も日本人も男も女もそれぞれが個性を重んじながら、助け合って生活する社会を、後世になっても続けて、かつ差別のない社会になって欲しい。」

「今も居住する外国人をはじめ、様々な国や地域の人々の文化などを受け入れ、また、様々な特性のある人々へ理解や協働についても自ら考える子どもを育てる教育をしてほしい。」

<働きがい・誰もが活躍>

「誰もが働きやすく住み良い街であってほしい！」

「誰もが自分らしく働けるまちづくり」

「働く意義・楽しさを伝えていく」

●新たな振興計画(素案)では、「人間の尊厳が尊重される社会」、「多様な背景を持つ人々が多様な幸せを追求できる社会」、「持続性のある社会」を理念として尊重し、SDGsの推進を通じて地球規模での持続可能性へとつなげる社会の実現を追求していくことが重視する姿勢を打ち出している。

P68では、ジェンダー平等の実現と性の多様性の尊重についての方針を示しており、P134ではディーセントワーク(働きがいのある人間らしい仕事)の実現など、働く人一人ひとりが、より良い将来展望を持ち、安心して働ける社会の実現を目指す記載を確認できる。

優先課題②

医療・福祉の充実、健康長寿と生きがい、子どもを貧困から守る子育てしやすい暮らし

No	沖縄らしいSDGsの実現	実現に向けたアクション
1	健康・長寿おきなわが復活している。	<ul style="list-style-type: none"> ・適度な運動など、生活習慣を見直し、生活習慣病を予防する。 ・飲酒は節度ある適度な量を心がける。 ・特定健診、がん検診を受診する。 ・感染症の感染防止策や新しい生活様式の実践に積極的に協力する。 ・健康経営の導入を促進する。 ・職員のメンタルヘルスケアに取り組む。
2	医療提供体制が充実し、安心して生活できる地域が実現している。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療の提供体制を充実する。 ・離島・へき地の医療提供体制を確保・充実する。
3	高齢者が安心して元気に暮らせる地域が形成されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・介護サービスや認知症サポーターによる支援等を充実する。 ・高齢者が生きがいをもって働ける環境や多様な交流・活躍の場を形成する。
4	ひとり親家庭など、支援が必要な方が安心して生活できる環境が形成されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てと生計維持を一人で担うひとり親家庭などに対する支援体制を充実する。
5	安心して子育てができる環境が形成されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・妊産婦を支える体制を充実する。 ・保育施設の量と質を確保する。 ・放課後児童クラブを充実する。
6	生活困窮世帯の子どもや世帯を支援する官民の枠組みが充実し、子ども達が生きていきと活動できる環境が形成されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄子どもの未来県民会議を中心とした官民連携の活動に参加する。 ・子ども食堂、フードバンク・フードネットワーク等に協力・支援を行う。 ・学校、地域、行政など関係機関が一体となって子ども達を支える。 ・子どもが安心できる様々な居場所を地域に増やす。 ・ヤングケアラーに関する課題解決に向けて、連携して取り組む。 ・教育・生活など、生活困窮世帯や支援が必要な子どもをサポートする団体等の活動に協力・支援を行う。

(参考) おきなわSDGsアクションプラン(骨子)の検討におけるインプット情報

定量的情報(県民アンケート)

『【問3】沖縄の将来において、何を变えていきたいか。』の回答者数及び回答率

- ①子どもの貧困問題(n=865) 51.3% ②病気予防(健康増進)、医療体制、感染症対策(n=289) 17.1%

定性的情報(県民アンケート、新たな振興計画関連、各種分野別計画等)

●県民アンケートでは、下記の意見を確認できた。

<健康長寿>

「沖縄の健康寿命を取り戻していきたい。」、「食生活や運動などを改め、職場や地域などでも男女ともに健康長寿の県を目指し・・・(略)」

<医療>

「沖縄県内でも市町村により、助成金などの内容がちがいで、子どもの貧困による教育・医療の提供に格差があるように思う。、市町村の統一を県が行うべき」
「現在看護師などが少なくなっているため人員を増やすような対策、医療体制を変えていく必要があると思います。、医療従事者を増やす取り組みが必要」
「住民数以上の観光入域を含めた離島のライフラインや消防医療の強化」

<福祉>

「「全ての人に健康と福祉を」を充実させてほしい。今の制度は申請主義で、医療や福祉の制度があることを知らないがために本来受けられるはずの人たちが受けられていないと考える。」、「年配の方から学ぶ機会が年々少なくなっている。手仕事や、文化、もっともっと若い世代と中年層、高齢者が一緒になって触れ合う機会をつくらないと、いずれ消えてしまう事が多くなると感じています」

<貧困・子育て支援>

「シングルマザーが活躍できる雇用や保育体制の整備、子供の貧困対策のための生活力の教育充実」、「子育て世代のために、保育施設が併設された職場などもあってほしい。」、「子どもの貧困対策が重要である。」、「子供の貧困問題について、食事と教育をサポートできる体制を作って欲しい。

また、沖縄県の各種主要計画においても、県民アンケートで確認できた県民の皆様の課題認識と県が掲げる課題設定・施策が合致していることを確認できている。

<医療・福祉・健康長寿>

●平成27年都道府県別生命表によると、沖縄県の平均寿命は、男性が80.27年で36位、女性が87.44年で7位と大きく順位を下げている。また、平成28年の沖縄県の健康寿命は、男性71.98年、女性75.46年である。これらの要因として、30歳から64歳までの働き盛りの世代の健康状態が指摘されており、「健康・長寿おきなわ」の復活が課題である。(沖縄県SDGs未来都市計画 P5)

●働き盛り世代の健康に対する意識の変容を促し、一人ひとりが健康意識を高め、食生活や運動等に係る健康づくりの取組を一体となって推進することにより、平均寿命日本一の、「健康・長寿おきなわ」が復活している。(沖縄県SDGs未来都市計画 P7)

●上記の課題解決に向けて、新たな振興計画(素案)等でも、本県の豊かな亜熱帯・海洋性の自然環境や歴史的風土と伝統に根ざした個性豊かな文化により人を惹きつける魅力、すなわち「ソフトパワー」を重要視する方針を示している。本県が有するソフトパワーは、国内外の人々が求める高次元のニーズである健康・長寿、安全・安心、快適・環境等にもつながり、本県の強み、比較優位ともいえる特性であるため、このソフトパワーの具現化を推進する。(新たな振興計画(素案) P26)

<貧困・子育て>

●平成27年度に実施した「子どもの貧困実態調査」により、沖縄の子どもの貧困率が29.9%と全国の約2倍、3人に1人が貧困状態という深刻な結果が明らかになったため、子どものライフステージに即して切れ目のない総合的な支援を行う必要がある。(沖縄県SDGs未来都市計画 P4)

●ライフステージに応じて支援を必要とする子どもや子育て家庭を、適切な支援機関等へつなげる仕組みを構築することにより、全ての子どもが夢・目標をもてる社会と、子どもを貧困から守る子育てしやすい暮らしが実現している。(沖縄県SDGs未来都市計画 P6)

●本県の子どもの貧困問題は全国に比べても著しく厳しい状況にあり、状況の改善と抜本的解決が求められる喫緊の課題である。(新たな振興計画(素案) P18)

優先課題③

地域への誇り（しまくとぅばの普及・推進等）と夢・目標をもてる学びの確保、教育の充実

No	沖縄らしいSDGsの実現	実現に向けたアクション
1	生まれ育った地域の歴史や文化等を学び、地域への愛着と誇りを持った若者が活躍する社会が実現している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校、地域、家庭でしまくとぅばを聞く機会や話す機会の創出や、子ども達の地域の歴史や文化等に対する愛着心の醸成に取り組む。 ・ 地域の伝統行事等を見直すきっかけをつくる。
2	時代に対応し、生きる力を育む、多様な学びの環境が形成されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校、地域、家庭でSDGsを学ぶ機会をつくる。 ・ 様々な国の歴史・文化など、多様性に対する理解を深める機会をつくる。 ・ 外国語、科学、ICT、アートなどを学ぶ機会を充実する。 ・ 一人ひとりが自分らしく生き生きと主体的に将来に向けて学べる環境をつくる。 ・ ICTを活用した学びの機会を充実する。
3	充実した人生100年時代、再チャレンジを支える学びの環境が充実している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャリア教育、リカレント教育等の機会を充実する。 ・ 生涯学習の環境を充実する。

(参考) おきなわSDGsアクションプラン(骨子)の検討におけるインプット情報

定量的情報(県民アンケート)

『【問2】沖縄の将来に、何を残していきたいか。』の回答者数及び回答率

⑤しまくとぅば、空手、芸能などの伝統文化(n=980) 58.1%

⑨沖縄に対する愛着と誇り(n=375) 22.2%

『【問3】沖縄の将来において、何を変えていきたいか。』の回答者数及び回答率

③教育・人材育成(n=707) 41.9%

定性的情報(県民アンケート、新たな振興計画関連、各種分野別計画等)

●県民アンケートでは、下記の意見を確認できた。

<学びの確保、教育の充実> ※教育政策に対する意見が多数確認できた。

「教育の機会を教育を受けたい人(子どもたちも含む)には積極的に与え受けられる社会環境を作る。」

「子供の教育・福祉は沖縄の百年を創る上でもっとも大切」

「将来の夢に伴って学力が必要になる事を子どもに伝える。子どもの貧困率や学力を全国平均値に近づけたい」

「目的を持たない子供たちが夢を語れるような教育をしてほしい」

<地域への誇り(しまくとぅばの普及・推進等)>

「しまくとぅばを学校教育の場面で教える機会をつくる」

「しまくとぅばとか沖縄の伝統行事とかを学校の授業とかに入れて残していきたい」

「しまくとぅばは、残っても話せる人も残さなければならない」

また、沖縄県の各種主要計画においても、県民アンケートで確認できた県民の皆様の課題認識と県が掲げる課題設定・施策が合致していることを確認できている。

<学びの確保、教育の充実>

●新たな振興計画(素案)にて、「貧困の連鎖等の悪循環を断ち切るためには、親の妊娠・出産期から子どもの社会的自立に至るライフステージに対応する切れ目のない支援体制等の仕組み、保護者の所得向上等を含めた社会政策、経済政策及び教育政策が一体となった総合的な取組の拡充ときめ細かな対応が急務である。」「時代変化に対応できる人材育成を進めるとともに、教育水準の向上やキャリアアップ等における人材育成もさらに進めなければならない。」といった記述から、教育・人材育成に注力する必要性が高いことを確認できる。

また、P170では、「社会参画とキャリアアップに資する学び直しの機会の創出」として、具体的に、

キャリアアップ・キャリアチェンジに資するリカレントプログラムの開発・展開の促進や一人ひとりのキャリア選択に応じた学びを提供できる環境の創出に取り組むことを示している。

<地域への誇り(しまくとぅばの普及・推進等)>

●琉球王国時代より培われてきた伝統文化、県内各地の伝統行事及び歴史を継承し、沖縄文化を更に発展させていくために、①各地域におけるしまくとぅばの保存・普及・継承の促進②伝統芸能の継承・発展 ③伝統芸能の継承・発展といった施策に取り組むことを示している。(新たな振興計画(素案)P43)

優先課題④

基幹産業として持続可能で責任ある観光（サステナブル／レスポンシブルツーリズム）の推進、観光との連携・相乗効果等も活用した産業振興（農林水産業におけるブランド化等）、県経済の基盤となる安定的な雇用

No	沖縄らしいSDGsの実現	実現に向けたアクション
1	世界から持続可能な観光地（サステナブル・ツーリズム等）として評価されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・サステナブル（持続可能）／レスポンシブル（責任ある）／ユニバーサル（誰もが楽しめる）・ツーリズムを推進する。
2	観光との連携・相乗効果なども活用し、県内企業の稼ぐ力を強化することで、域内経済循環の拡大や県民所得の向上が実現している。	<ul style="list-style-type: none"> ・企業の連携やICTの活用、高度人材の育成・確保等による付加価値や生産性の向上を図る。 ・経済における「SDGsの主流化」や地域課題に対応したソーシャルビジネス創出とESG投資等を促進する。
3	県産農林水産物のブランド化による県外消費と地産地消の促進により農業・水産業の産出額等が拡大している。	<ul style="list-style-type: none"> ・観光との連携を含めた農林水産物のブランド化、6次産業化の取組を促進する。 ・県産農林水産物の地産地消を促進する。
4	科学技術・イノベーションにより、健康・バイオ・医療関連産業などの新たな産業等が創出され、持続可能な産業が振興している。	<ul style="list-style-type: none"> ・健康・バイオ・医療、環境、ブルーエコノミー、航空・宇宙等の新たな産業の創出・集積に向けて取り組む。 ・産学連携の研究開発促進や新技術の実証試験等を積極的に行うテストベッド・アイランドの形成などにより、高付加価値産業の創出・育成する。 ・スタートアップの支援を充実させ、新たなビジネス創出を促進する。 ・支援機関の連携を促進し、効果的な支援体制を構築する。
5	県内の雇用状況が改善・安定し、働く意欲のある人が安心して働ける環境が形成されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・正規雇用の拡大や、非正規雇用労働者の待遇の改善を促進する。 ・働きやすい環境、柔軟な働き方ができる環境づくりを促進する。 ・再就職、転職に向けた職業能力開発や就業支援を充実する。

(参考) おきなわSDGsアクションプラン(骨子)の検討におけるインプット情報

定量的情報(県民アンケート)

『【問2】沖縄の将来に、何を残していきたいか。』の回答者数及び回答率

- ①海や森林、希少生物などの自然環境 (n=1375) 81.6%
- ②歴史的建造物や赤瓦屋根などの沖縄らしい風景 (n=743) 44.1%
- ⑤しまくうば、空手、芸能などの伝統文化 (n=980) 58.1%
- ⑥琉球料理、泡盛などの食文化や伝統工芸 (n=545) 32.3%
- ⑦離島の魅力(豊かな自然、独自の文化等) (n=263) 21.6%

『【問3】沖縄の将来において、何を变えていきたいか。』の回答者数及び回答率

- ⑨雇用、働き方のあり方 (n=417) 24.7%
- ⑩産業(観光、ものづくり、農林水産等)の在り方 (n=328) 19.5%
- ⑬離島の生活環境、産業のあり方、格差解消 (n=195) 11.6%

定性的情報(県民アンケート)

●県民アンケートでは、下記の意見を確認できた。

<観光>

「観光立県の沖縄で一番の魅力である自然を壊さないでほしい」

「沖縄の地域性・気候などの特性を理解した上での観光産業を再構築する。→自然を切り売りせず、沖縄でしか体験できない価値を創造し国内外のリピーターを増やしつつ観光客ひとり当たりの単価の向上を図る。」

「観光が経済の中心になっているので、伝統文化、工芸品、自然は大切、伝統工芸品の後継者育成。銀細工などはかなり厳しい状況だと思う。、何も出来ない。」

「県民ひとり一人が観光立県であることを意識させるような取り組み。」

「コロナで観光業は壊滅。、離島も含め、観光業で生活していけるような基盤づくり。給料が上がらなければ、人々の意識も変わらない」

<県内の産業振興>

「コロナの経験を踏まえ、観光以外の産業を強化する必要がある。特に製造業。、沖縄はアジア諸国に近い地理的優位性があるので、それらの国々に輸出できる産業を誘致してはどうか。例えば台湾は半導体が大きな産業なので、半導体製造装置を作る工場など。」

「コロナ禍で露呈した収入格差や観光産業依存。これを脱却する為に県外企業の海外向け製品の工場誘致などハブ拠点の優位性を強みにし、大型雇用の創造と収入確保。」

「沖縄県の産業を発展させる(雇用を確保する)為には、観光業だけでは無く、製造業についても力を入れるべきである。」

「観光立県からの脱却、1本に頼ることなく、製造業などを誘致し、コロナなど外的要因で県民生活に大きく影響を与えないようバランスが大事だと思います。」

<県民所得>

「県民所得をあげたい。沖縄の人がもうかる仕組みづくり」、「県民の所得をあげる政策を推進する」

「全国でも低いレベルにある沖縄県の所得状況を改善してほしい。、環境を守ることはとても良いことだが、まずは目の前の生活をどうにかしてほしい。」

<農林水産業>

「沖縄の産業構造は第一次産業のウェイトが低く、収益性の面で第三次産業が大きく、地元のものづくり(特に農林水産業)を起点とした価格形成のあり方などを変えていく必要があると思います。」

<科学技術・イノベーション・高付加価値産業>

「観光業以外でも、雇用が増えるような仕組みを新しく作れたら良いと思う（IT分野）。」

「全て大切だが、沖縄は大きな産業がないので、物流、情報産業の整備、育成は大切かと思う。物流、情報産業整備のための戦略。」

「産業（観光、ものづくり、農林水産等）、特に観光やITなど県のリーディング産業において、補助金の優遇を県外企業だけが享受するのではなく、企業を通じて県民に還元されるように働きかけてほしい。」

<雇用の安定>

「離島に雇用が無く、「観光」が主目的の県外の事業者に観光資源を消費される一方で持続的な取り組みはほぼなされない。」

「沖縄の雇用環境（給与水準）を本州並みに変えていきたい。」

定性的情報（新たな振興計画関連、各種分野別計画等）

沖縄県の各種主要計画においても、県民アンケートで確認できた県民の皆様の課題認識と県が掲げる課題設定・施策が合致していることを確認できている。

●沖縄県SDGs未来都市計画では、経済面の課題として「(1) 高付加価値産業の発展と SDGs の「主流化」推進 (2) 持続可能な観光振興策の再考 (3) グリーン・リカバリー（コロナ禍からの持続可能な経済復興）」を挙げており、2030年のあるべき姿として「強くしなやかな自立型経済の構築と沖縄観光ブランドの確立」を掲げる。（沖縄SDGs未来都市計画 P5～6）

●新たな振興計画でも「中長期的なスパンで観光収入と環境保持そして住民の幸福感の三位一体となったバランス」が示されており、観光産業に関わる様々なステークホルダーが一体となることで、ウィズコロナ・アフターコロナにおける新たな観光立県としての目標を定める方針を示している。（新たな振興計画（素案） P92）

●沖縄県としても、一人当たり県民所得の低さ、ひいては就業者当たりの付加価値額を表す労働生産性の低さを重要課題として設定している。（新たな振興計画（素案） P19）なお、これは沖縄21世紀ビジョン基本計画においても同旨を記載しており、沖縄県が抱える根源的な課題と考えられる。

両面印刷のためのページ調整で白紙を入れています。

優先課題⑤

日本とアジア・太平洋の架け橋となる物流・情報・金融の拠点

No	沖縄らしいSDGsの実現	実現に向けたアクション
1	アジア・太平洋の国際物流拠点が形成されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高付加価値製品を出荷する製造業の育成・集積を促進する。 ・ 物流関連企業の育成・集積を促進する。 ・ 国際物流拠点を支える空港及び港湾の機能強化を推進する。 ・ 物流産業、製造業における雇用拡大を促進する。
2	デジタル社会が実現し、情報通信産業や金融関連産業の国際的な拠点が形成されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT、IoT、AI、ロボット等を活用した新たなビジネス・イノベーションの創出、集積を促進する。 ・ あらゆる分野において、DX（デジタルトランスフォーメーション）を促進する。 ・ 情報関連の専門人材育成と雇用拡大を促進する。 ・ 官民連携により次世代通信網の基盤整備を促進する。

(参考) おきなわSDGsアクションプラン(骨子)の検討におけるインプット情報

定量的情報(県民アンケート)

『【問3】沖縄の将来において、何を変えていきたいか。』の回答者数及び回答率

①物流・情報・金融ネットワーク(n=129) 7.7%

定性的情報(県民アンケート、新たな振興計画関連、各種分野別計画等)

●県民アンケートでは、下記の意見を確認できた。

<物流拠点>

「コロナ禍で露呈した収入格差や観光産業依存。これを脱却する為に県外企業の海外向け製品の工場誘致などハブ拠点の優位性を強みにし、大型雇用の創造と収入確保。」

「国内外の先行事例の適用、沖縄独自の文化を継承しつつ、aseanとのネットワークの物流、情報などのHUB基地として重要な役割を担うエリアへ成長」

「物流をより効率よく、スムーズにできるように。」

「離島だったり本州から離れてい分、仕方ない部分も大きいけど、物流関係が遅いのを早くしたい。」

<情報通信・金融>

「日本におけるアメリカのシリコンバレーの立ち位置を目指すのはどうか、ITに限らずベンチャー企業が活動し易い環境を整備することで起業活動が活発になれば、人の流動もよくなり、投資資金等の金融の流れもよくなるのではないかと思う」

「観光業の発展と同時に、ネット環境、交通関係の整備等、シンガポールのように金融関係事業等の環境整備の取り組みが必要」

「義務教育からの金融教育を取り入れてほしい」

「ICTを活用し多岐・多様なネットワークを構築するとともに、関連するビジネスで県内雇用の向上を図る」

「観光産業だけでなく、独立型ビジネスを構築(こどもたちの育成も含め)」

「観光だけが取り柄の3次産業から脱却をしてほしい」

「観光だけでなく、別の産業ビジネスでも有名になり、県民の生活向上と日本全体との良い相互作用が生まれること。」

●新たな振興計画(素案)では、「自立型経済の構築はなお道半ばにあり、生産、所得、雇用等の経済パフォーマンスでは全国と乖離がある。」とされており、経済パフォーマンスに課題があるとしている。

また、基本施策として、「アジアのダイナミズムを取り込む国際物流拠点の形成と臨空・臨港型産業の集積」、「ResorTech Okinawaの推進による情報通信関連産業の高度化・高付加価値化」、「科学技術イノベーションの創出と次世代を担う持続可能な産業の振興」、「沖縄の優位性や潜在力を生かした新たな産業の創出」を掲げている。

優先課題⑥

気候変動に適応する強靱なインフラと交通網の整備

No	沖縄らしいSDGsの実現	実現に向けたアクション
1	災害に強い地域づくり・まちづくりが実現している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会基盤等の防災・減災・長寿命化の対策を進める。 ・ ハザードマップの充実及び周知を促進するとともに、災害時の緊急避難体制を強化する。 ・ 要配慮者への支援体制を行政や地域等の連携等により構築する。
2	島しょ地域に対応したエネルギーの安定供給、強靱化、脱炭素化が実現している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 太陽光発電等の再生可能エネルギーの導入を促進する。 ・ 災害に強いエネルギー供給体制の構築に向け、エネルギーの自立分散化を推進し、安定供給とレジリエンス（強靱性）の強化を図るため、エネルギーマネジメントシステムを活用した地域マイクログリッドや、非常用電源となる蓄電池（EV等含む）の導入拡大を推進する。 ・ 本島の離島地域等をテストベッドとした再生可能エネルギーや水素・アンモニア等の次世代エネルギー導入促進に向けた実証試験等を推進し、島しょ地域におけるエネルギーの脱炭素化に取り組む。
3	環境と人に優しい地域づくり、交通網・まちづくりが実現している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緑化の推進と適切な管理等により、潤いと安らぎのある地域をつくる。 ・ 過度な自家用車利用から公共交通への利用転換を促進する。 ・ ICTの活用や機能強化等により公共交通の利便性を向上する。 ・ 鉄軌道を含む新たな公共交通システムと地域を結ぶ利便性の高い公共交通ネットワークを構築する。 ・ 電気自動車や電動自転車等のシェアリングを促進する。 ・ 交通渋滞の緩和・解消を通じて、負担なく移動できる環境づくりに取り組む。 ・ 沖縄らしい景観・風景づくりや独自の歴史・文化を体現する風格ある都市空間を創出する。

(参考) おきなわSDGsアクションプラン(骨子)の検討におけるインプット情報

定量的情報(県民アンケート)

『【問3】沖縄の将来において、何を变えていきたいか。』の回答者数及び回答率

⑧気候変動・脱炭素化(エネルギー、産業、生活等)の取組(n=284) 16.8% ⑩地域の公共・交通ネットワーク(n=169) 10.0%

定性的情報(県民アンケート、新たな振興計画関連、各種分野別計画等)

●県民アンケートでは、下記の意見を確認できた。

<インフラ関連>

「環境を壊すような新しい開発や埋め立て、森林伐採をやめて今ある資源を生かす建築やインフラ、農業をすすめる」という意見が確認できており、インフラ整備において環境に配慮する視点が強く求められる。

「現状に必要なインフラの維持管理が徹底され安心安全に走行できる交通ネットワークへ変えたい。」

「インフラの劣化損傷を注意深く観察し、異常等の早期発見に努め、それらを情報提供する(苦情ではなく、意見・情報提供として伝えるようにする)。必要のある歩道整備や歩行者を守る安全施設設置、更新について情報提供する。情報提供後の取り組みについて、状況確認する(伝えて終わりではない)。沖縄の土地が、魅力維持できるような「まち」になって欲しい。」

<再生可能エネルギー>

「島全体での再生可能エネルギーへの完全なる移行」、「原発がなく、脱炭素化が難しいことを逆にとり、再生可能エネルギーの先進県にする。」

「次回の車は電気自動車予定、再生エネルギーで無駄をなくし経費の掛からない豊かな庶民の生活」

「再生可能エネルギーが環境を守る手段として注目されていますが、そのエネルギーを作るために別の環境を破壊している例も見られます。何かを得るためには必ず何かを失うというのなら、自然を損ねずに、自分たちの暮らしを多少不便にさせてでも自然環境を残し守るべきではないかと思えます。その上で、これまで先人が築いてきた歴史的建造物や伝統工芸を守れる人材を育成することに力を入れて、沖縄独自の文化を残していけたら良いです。」

<交通網整備関連>

「県外のような交通網作りが必要」、「公共交通網を充実させる」、「SDGsを語るのであれば、車を削減することから目を背けないでほしい。」

「渋滞解消のインフラ整備は沖縄県はもっと必死にやるべき。モノレール駅の近くに格安の駐車場を県が作るなど、本気で渋滞解消に力を入れる(お金を使う対策ではなく、知恵を絞った対策を)」

また、沖縄県の各種主要計画においても、県民アンケートで確認できた県民の皆様の課題認識と県が掲げる課題設定・施策が合致していることを確認できている。

<インフラ関連>

●沖縄21世紀ビジョン基本計画では、生活基盤の機能維持・強化については、上下水道、道路、港湾、漁港、空港、ダムなど公共施設の計画的な維持管理、補修、補強及び更新による、耐震化対策、老朽化対策及び長寿命化対策に取り組む方針を示している。(沖縄21世紀ビジョン基本計画 P50)

●新たな振興計画(素案)では、「本県の下水道施設は整備から50年以上経過したものが多く、老朽化や耐震性能不足の施設があることから、点検・修繕等による長寿命化対策や効率のかつ計画的な更新・耐震化等に取り組む、下水道施設の強靱化を図る。」といった記載もあり、また、防災という観点から「大規模災害等に対応した社会インフラや公共施設等の防災減災対策及び長寿命化対策を推進する。」といった方針を確認できる。(新たな振興計画(素案) P70・222)

<再生可能エネルギー>

●沖縄SDGs未来都市計画では、2030年のあるべき姿として、環境面では、「美ら島」沖縄らしい島しょ型エネルギー社会の実現による環境・生態系保護を掲げており、「再生可能エネルギーの導入拡大等により、エネルギーの低炭素化・自立分散化・地産地消化が推進され、低炭素で災害に強い、沖縄らしいエネルギー社会が実現している。」と記載している。(沖縄SDGs未来都市計画 P7)

●新たな振興計画(素案)でも、「再生可能エネルギーの導入など、環境に配慮した島づくりに力を入れ、島の魅力を世界へ発信していくことが重要である。」「2050年脱炭素社会の実現を見据え、太陽光発電、風力発電、バイオマス等の再生可能エネルギーの導入を推進するとともに、小規模離島におけるスマートコミュニティモデルを普及展開する。」といった取組方針を確認できる。(新たな振興計画(素案) P231)

<交通網整備関連>

●本県は自動車への依存度が高く、体系的な道路ネットワークが不十分のため交通渋滞が問題視される。新たな振興計画(素案)では、シームレスな総合交通体系の構築を掲げており、「地域間を結ぶ交通ネットワークの拡充に加えて、交通結節点を地域の交通拠点(マルチモーダル)として整備し、多様なモビリティを活用したスムーズな乗り継ぎサービスのみならず、周辺の特성에応じた情報発信・収集機能、防災機能、拠点機能を併せて提供する」(新たな振興計画(素案) P146)

優先課題⑦

多様な生物・生態系や世界自然遺産を含む自然に囲まれた環境の保全、エコアイランドの実現、自然と調和したライフスタイル

No	沖縄らしいSDGsの実現	実現に向けたアクション
1	美しく豊かな自然が保全され、生物多様性が維持されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・世界自然遺産や自然公園を適正に保全・管理しつつ持続的な利用を推進する。 ・生物多様性の保全のため、希少野生生物のモニタリングや外来種の駆除等を推進する。 ・赤土対策、海岸漂着物等対策、不法投棄の対策等、水域や陸域の環境保全対策を推進する。 ・サンゴ礁が広がる美しい海、緑豊かな森林等、希少な野生生物が生息・生育する生物多様性に富んだ沖縄の自然環境の保全について理解を深めるため、環境学習や普及啓発等を推進する。
2	脱炭素社会が実現している。	<ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギーや省エネルギー設備・機器、ネットゼロエネルギーハウス・ビル（ZEH・ZEB）、スマートグリッドシステム等の導入を促進する。 ・脱炭素社会の実現を加速するための革新的技術の社会実装を推進する。 ・カーボンオフセットの活用や二酸化炭素吸収源の確保・拡充を推進する。 ・EV、PHV等の次世代自動車の導入を推進する。 ・省エネルギー行動（節電、省エネ家電、公共交通利用・徒歩・自転車利用等）を推進する。
3	自然と調和したライフスタイル形成と資源循環型の社会が実現している。	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーン購入（環境負荷が小さい製品購入）、エシカル消費（環境・貧困、人権問題などに配慮した倫理的・良心的な消費）を推進する。 ・食品ロスの削減に向けて、官民が連携し、県民運動として推進する。▼・脱プラスチック社会に向けて、使い捨て容器包装等の削減等によるプラスチック製品の使用低減、環境に優しい製品への転換などを推進する。▼・廃棄物の減量化や資源循環（リサイクル等）の取組を推進する。

(参考) おきなわSDGsアクションプラン(骨子)の検討におけるインプット情報

定量的情報(県民アンケート)

『【問2】沖縄の将来に、何を残していきたいか。』の回答者数及び回答率

- ①海や森林、希少生物などの自然環境 (n=1007) 82.5%
- ②歴史的建造物や赤瓦屋根など沖縄らしい風景 (n=525) 43.0%
- ⑦離島の魅力(豊かな自然、独自の文化等) (n=263) 21.6%

『【問3】沖縄の将来において、何を变えていきたいか。』の回答者数及び回答率

- ⑧気候変動、脱炭素化(エネルギー、産業、生活等) (n=284) 16.8%
- ⑭消費やゴミの廃棄のあり方 (n=380) 22.5%

定性的情報(県民アンケート、新たな振興計画関連、各種分野別計画等)

●県民アンケートでは、下記の意見を確認できた。

<自然保全>

「沖縄にしか住んでいない希少な生物、植物を絶滅させないように残していきたい。」

「沖縄特有の原風景や自然環境を、できるだけ人の手を加えずにそのままの状態に残したい。また、温暖化や環境汚染等から自然環境を守り、絶やさぬようにしていきたい。」

「沖縄独自の豊かな自然を後の世代にも残したい」

「自然遺産として、保護地区をきちんと残してほしい。」

「海が綺麗な状態を保つことと、野生動物の安全を確保すること」

「青い海と魚、珊瑚を残していきたい」

<脱炭素社会>

「気候変動(サンゴの保護)に対してカーボンニュートラルは必須。島しょ県ということを活かして、水素自動車や電気自動車が普及するような実証実験を行うとよいと思う。車体の購入費用の補助のほか、水素自動車が普及できるように、水素ステーション設置の補助事業、電気自動車については、マンション住人は充電設備の面でハードルが高いため、マンション単位での充電設備などの補助事業もあればよいと思う。」

「電気自動車かりサイクルに力をいれる」

「地球温暖化対策(CO2削減)」

「環境アセスメントの厳密化、クリーンな工場の誘致・換装、再エネ・水素エネルギーの充実」

「CO2の徹底削減と自然エネルギーの利用」

<自然と調和>

「ゴミ問題や環境問題について公共施設から使い捨てプラスチックゴミの規制をして示していく。お弁当業者へプラスチックゴミから沖縄のサトウキビのバガスや環境に配慮した容器の提供や差額の負担など。」

「ゴミを減らす」

「ゴミの廃棄の仕方を地球にとってできるだけ害が少なくなるようにする」

「食品ロスを無くす」

「フードロスの関心を高める」

●新たな振興計画(素案)では、『長期構想「沖縄21世紀ビジョン」の策定に際して、多くの県民が本県に欠くことのできない将来像として「自然環境」を重視した』としている。また、基本施策として、「世界に誇れる島しょ型環境モデル地域の形成」、「自然環境の保全・再生・継承及び持続可能な利用」、「持続可能な海洋共生社会の構築」を掲げている。

優先課題⑧

基地から派生する諸問題の解決の促進、平和を希求する沖縄として世界平和への貢献・発信

No	沖縄らしいSDGsの実現	実現に向けたアクション
1	基地から派生する諸問題の解決が進んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・米軍基地から派生する事件・事故、航空機騒音、環境汚染等の諸問題について、関係機関と連携し、解決に向けて必要な協議や措置を国等に求める。 ・事件・事故等の未然防止、被害者への補償を求める。 ・航空機騒音等の調査を踏まえ、騒音の軽減を求める。 ・環境問題に関する調査、調査結果の公表、汚染防止及び除去を国等に求める。
2	平和を希求する「沖縄のこころ」が継承され、国内外に広く発信されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・平和祈念館・平和の礎・慰霊碑等の訪問、平和発信に向けた式典、展示会・シンポジウム等の開催、平和の構築・維持に貢献する個人・団体等とのネットワーク形成を通じ、国内外に平和を希求する「沖縄のこころ」を発信する。 ・沖縄戦の体験や遺産等の記録・保存・調査研究を推進する。 ・地域子ども達が平和を学ぶ機会及びコンテンツを充実する。 ・修学旅行生を含めた観光客に対する平和学習やSDGs等の教育旅行を充実する。 ・平和学習や教育旅行を支えるガイドなど、次世代に平和を語り継ぐ担い手の育成・確保に取り組む。 ・文化及びスポーツ交流等を通じた国際相互理解の促進により、国際社会の平和に貢献する。

(参考) おきなわSDGsアクションプラン(骨子)の検討におけるインプット情報

定量的情報(県民アンケート)

『【問2】沖縄の将来に、何を残していきたいか。』の回答者数及び回答率

⑧命を尊び、平和を希求する心(n=476) 28.2%

『【問3】沖縄の将来において、何を变えていきたいか。』の回答者数及び回答率

⑮基地から派生する諸問題(n=375) 22.2%

定性的情報(県民アンケート、新たな振興計画関連、各種分野別計画等)

●県民アンケートでは、下記の意見を確認できた。

<基地から派生する諸問題>

「基地から派生する諸問題を減らす」、「米軍基地からでるPFOSのような有害物質を無くす。」

※「SDGsに関する万国津梁会議」において、米軍基地建設に関する多様な意見と議論を経て、優先課題として「基地から派生する諸問題の解決の促進…」を設定している(SDGsは対立構造ではなく、共に作っていく構造に切り替えていくかが重要等)

※県民アンケートにおいては、米軍基地建設に関して賛否を含めた多様な意見があった。

<平和学習、次世代への平和の継承>

「平和教育についてもしっかりと語り継ぎ、風化させない活動が必要と思う。」

「平和教育を充実させるために国からの予算を確保して、人材育成やその教育のための本、資料、場所の提供に使う、学ぶ環境を整える。」

「平和学習を、大学や専門学校などでも取り入れる」

「平和な世の中を希求する研究機関、サービスなどを充実させていき、先人の築いた知恵や文化を継承しつつ新しい沖縄の文化を創造し発信していく。」

また、沖縄県の各種主要計画においても、県民アンケートで確認できた県民の皆様の課題認識と県が掲げる課題設定・施策が合致していることを確認できている。

<基地から派生する諸問題>

●新たな振興計画では、「引き続き米軍基地の整理・縮小に向けた取組を進めるとともに、米軍基地から派生する事件・事故、航空機騒音、環境問題等の諸問題について国の責任による解決促進を図り、また、不発弾対策、所有者不明土地問題、戦没者遺骨収集、未買収道路用地問題など、今もなお残された戦後処理問題を解決することで、地域社会への多大な影響や住民の過重な負担を軽減し、県民生活の安全・安心の確保を目指す。」として、米軍基地から派生する諸問題及び戦後処理問題の解決を掲げている。(新たな振興計画(素案)P81)

<平和学習、次世代への平和の継承>

●本県は、世界水準の観光地であるとともに、広くアジア諸国・地域と結んだ大交易時代、苛烈な沖縄戦の経験など、アジア・太平洋地域の過去と未来、また、平和構築、安全保障、国際協調等を考える上で他にはない思索と実践の場でもある。(新たな振興計画(素案)P21)

●アジア・太平洋地域の平和構築に貢献する地域協力外交の展開

強く平和を希求する「沖縄のこころ」を広く国内外へ発信し、アジア・太平洋地域における独自の地域協力外交や平和発信拠点としての役割を担い、新時代の平和構築に貢献することを目指す。平和と国際協調を外交理念とする我が国において本県が果たすべき役割を踏まえ、本県が有するソフトパワーを活用した国際的な地域間協力の推進など、平和協力外交地域としての独自の展開が課題である。このため、アジア・太平洋地域の平和拠点の形成と沖縄戦の実相・教訓の次世代継承に取り組む。(新たな振興計画(素案)P149)

●その他、パブリック・コメント(沖縄県SDGs実施指針(素案)に係る意見と意見に対する考え方No.2より抜粋)にて、下記の意見を踏まえて、沖縄の伝統工芸・スポーツなどを通じた平和の発信に関する意見を確認している。

「世界平和への貢献発信に関して伝統工芸を通じて発信していくことで効果的に発信できると信じています。平和を伝えるというどうしても堅苦しいイメージがなかなか受け入れがたいところが正直あると思います。一方で、歌や踊りは楽しめるイベントとして人気があります。また、歌や踊りには人の心を動かす力があります。沖縄でも例えばエイサーなどは踊りとして沖縄独自であり、人気もあり見ても面白いものだと思います。他にも、スポーツにも平和の発信に大きな影響があると思います。」

優先課題⑨

共助・共創型の安全・安心な社会の実現

No	沖縄らしいSDGsの実現	実現に向けたアクション
1	事件や事故の防止等、安全・安心に暮らせる地域が形成されている。	<ul style="list-style-type: none"> 行政、地域防犯ボランティア、関係機関が連携した防犯ネットワークの構築や防犯対策の普及等を促進する。 飲酒運転の根絶、節度ある適度な量の飲酒に対する理解を深め、アルコール関連の犯罪防止を促進する。 未成年の非行防止・健全な育成に向けて、見守りや相談指導、文化・スポーツ等の多様な交流機会の確保など、行政、地域、教育機関、家庭等が連携して取り組む。▼・災害時の地域防災力の強化するとともに、要配慮者への支援体制を行政や地域等の連携等による構築する。
2	社会的弱者に対する犯罪等の防止や被害者等への支援のための体制や環境が構築されている。	<ul style="list-style-type: none"> DV、性犯罪・性暴力等について、相談窓口の設置と関係機関が連携した体制により、速やかな相談対応から支援の実施につなげる。 児童虐待の未然防止、早期発見に向け取り組むとともに、市町村などの関係機関や地域の連携を促進する。 児童虐待、DV、性犯罪・性暴力等の防止に向けた教育の充実やそれらの犯罪を許さない県民意識の更なる向上と犯罪防止に向けた連携を促進する。 外国人との結婚や離婚等に関連する国際的な家庭問題等への支援を促進する。 行政、民間支援団体、関係機関等が連携し、犯罪被害者等に対する支援活動等を推進する。
3	地域課題に行政・地域・企業等の多様な関係者が連携して対応する共助・共創型の社会が形成されている。	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民、NPO等の市民社会団体、企業、行政等が参画し、多様な形で人的・財政的な資源等を確保しながら、地域課題の解決に取り組む。 行政・企業・団体間の様々な包括的な連携等の様々な取組を充実する。 NPO等を始めとする各種支援団体の活動に対して協力及び支援を行う。

(参考) おきなわSDGsアクションプラン(骨子)の検討におけるインプット情報

定量的情報(県民アンケート)

『【問3】沖縄の将来において、何を变えていきたいか。』の回答者数及び回答率
⑩防犯や防災対策等を通じた安全・安心なまちづくり(n=156) 9.3%

定性的情報(県民アンケート、新たな振興計画関連、各種分野別計画等)

●県民アンケートでは、下記の意見を確認できた。

<事件や事故の防止>

「最近沖縄でもさまざまな事件が起きているのもっと防犯対策をしてほしい。」
「平和で誰でも安全に住める沖縄にしたい。」
「安全に暮らせるように飲酒運転の撲滅等」
「飲酒を控えた社会の形成に向けて、自分の周りからはじめる。」
「子供がよるこんで通える学校や、安全な地域環境をつくるために、教師・親・地域住民が協力・連携する。」

<社会的弱者に対する犯罪等の防止>

「家庭の問題とせず、DVや人としての生き方を子どもに示せない者を許さず、子どもを守る。立ち直りを応援する。」
「学生や未成年等、自力で稼ぐ力がない世代の妊娠出産・中絶の防止、それに伴う離婚率の抑止、暴力の根絶が実現してほしい。」
「子供や女性を性犯罪などから守るために、自己防衛の知識を広める。」
「離婚率が高かったり妊娠するのが若いなどがあるのでそういう面での教育」
「教育の水準を上げ大学への進学率をあげる必要がある。そうすると所得の安定、若年層の妊娠、出産、離婚率も下がると思う。」

<共助・共創型の社会>

「孤立を防ぐためにコミュニティの取り組み強化やコミュニティ同士の連携、そしてその集団の地域ごとの連携が必要だと考えています。」
「相互扶助の中の精神、各地域の互助・共助が根底に根付けばSDGsの進む道も開けると思います。」

●新たな振興計画(素案)では、「安全・安心に暮らせる地域づくり」が掲げられており、安全・安心な生活の確保と警察活動の強化、犯罪被害者等への支援の推進、成人の適正飲酒及び未成年者飲酒防止対策の推進、DV防止対策等の拡充等により、日常生活における犯罪や危険から県民を守るため、安全・安心に暮らせる地域づくりを推進することが掲げられている。

優先課題⑩

ユイマール（相互扶助）の継承、人の和・地域の和

No	沖縄らしいSDGsの実現	実現に向けたアクション
1	県民一人ひとりが地域活動に積極的に参画するローカルパートナーシップが充実した社会が実現している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域について学び、地域の方々と交流し、地域活動や地域の伝統行事に参加する。 ・ 地域ボランティア活動や地域の文化・スポーツ活動への参加促進と、活動への協力・支援を行う。 ・ 自治会や自主防災組織、地域防犯活動等の地域コミュニティへの参加と活動への協力・支援を行う。
2	地域の伝統行事や文化に若い世代が参加する機会が増え、次世代に継承されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の歴史や文化等に対する愛着心を醸成し、地域外との交流を通じた地域文化の掘り起こしに加え、伝統芸能や地域行事の積極的な発信に取り組む。

(参考) おきなわSDGsアクションプラン(骨子)の検討におけるインプット情報

定量的情報(県民アンケート)

『【問2】沖縄の将来に、何を残していきたいか。』の回答者数及び回答率
③相互扶助の県民性、人の和・地域の和(n=446) 26.5%

定性的情報(県民アンケート、新たな振興計画関連、各種分野別計画等)

●県民アンケートでは、下記の意見を確認できた。

<地域活動を推進>

「自治会加入や子ども会などの地域活動を推進する取組が必要。学校と地域のつながりも大切。」

「地域住民主体の自治運営の気質が根強く残っており、それらが地域の魅力や固有性を担保していると考えます。これからもその様な運営が継続できるような支援を望みます。」

「幼少期の頃から、多くのイベントに気軽に参加させる。意識的に参加させる。(以前に比べ、地域コミュニティの欠落が課題となる)」

「とにかく、両親を含め、地域コミュニティへの積極的な参加、行事の継承。」

「各地域毎のコミュニティがより深くなるように、スポーツ大会や子供会議など、小さな子供達が保護者と一緒に参加しやすく、楽しみながら問題に対する思考力も一緒に培えるようなイベントを開催する。」

「地域や世代間を超えた多様な交流は子どもの貧困問題にも繋がるものだと思うので地域コミュニティの強化をするべき」

<伝統行事や文化の継承>

「伝統行事を次の世代へ残していきたい」

「地域の伝統行事をこれからの世代の人達にも知って受け継いで欲しい。」

「地域の行事に参加し交流をしたり、私の島には伝統行事があるのでそこで伝統や方言を少しずつ学んで、次の世代へつなげていきたいと思います」

●新たな振興計画(素案)では、「地域コミュニティの活動支援」として、県民や地域組織、NPO、企業、行政等の多様な主体の参画による地域の課題解決や持続可能な地域づくりに向けて、地域ボランティア・NPO等の活動支援、地域の活力を高める多様な連携と協働の取組を推進することが掲げられている。

また、文化資源を活用した地域づくりとして、地域の歴史、伝統的風習、伝統行事等に対する住民の愛着心を醸成し、地域外との交流を通じた地域文化の掘り起こしに加え、県内各地で開催されている伝統芸能や地域行事の積極的な発信に取り組むことが示されている。

優先課題①

地域・世代・分野・文化等を超えた多様な交流と連携の創出

No	沖縄らしいSDGsの実現	実現に向けたアクション
1	離島等の魅力を活かした地域間の交流が活発に行われる社会が実現している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 離島の魅力の理解を深め、国内外に発信し、観光を始め様々な交流を促進する。 ・ 離島等における生活、経済活動を支える様々な基盤や環境を充実させる。 ・ 離島等の移住を促進するとともに、地域コミュニティの参加を支援する。 ・ 移住・定住を促進する住環境を充実させる。
2	世界のウチナーンチュとの交流が活発に行われ、次世代へ安定的に継承されていく環境が実現している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国内外の県人会や団体等、世界に広がるウチナーネットワークの継承・発展に向け取り組むとともに、経済・文化等の様々な方面の国際交流を促進する。 ・ 若い世代や企業等の海外進出を促進する。
3	伝統文化・歴史・伝統行事を若い世代が継承し、世代や国を超えた発信を行い、多様な交流が広がっている社会が実現している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 首里城の復元と琉球歴史・文化の復興に向けた様々な活動等に地域、世代を超えて取り組む。 ・ 地域の伝統行事や食文化など、地位の個性豊かな文化資源の特性に応じたまちづくりに資する取組を推進するとともに、地域や世代を超えて魅力を発信する。 ・ 沖縄空手の保存・継承・発展に向けて、国内外への情報発信、指導者及び後継者の育成及び世界レベルの大会や国際的なイベントを通じた国際交流を促進する。
4	多様な文化やスポーツ等の活動や交流、地域の資源を活かした、地域活性化や産業振興、国際交流が実現している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本県の多様な文化芸能の振興を通じ、地域の活性化や多様な交流を促進する。 ・ スポーツイベント開催、キャンプ誘致、地域プロスポーツなどにより地域の活性化と多様な交流を促進する。 ・ 子どもや若い世代の様々な文化・スポーツ活動への挑戦を地域で支え、人材を育成する環境づくりに取り組む。

(参考) おきなわSDGsアクションプラン(骨子)の検討におけるインプット情報

定量的情報(県民アンケート)

『【問2】沖縄の将来に、何を残していきたいか。』の回答者数及び回答率

⑩国内外に存在する世界のウチナーンチュネットワーク (n=125) 7.4%

⑤しまくとぅば、空手、芸能などの伝統文化 (n=980) 58.1%

⑥琉球料理、泡盛などの食文化や伝統工芸 (n=545) 32.3%

『【問3】沖縄の将来において、何を残していきたいか。』の回答者数及び回答率

④地域・世代・分野文化等を超えた多様な交流と連携の創出 (n=196) 11.7%

定性的情報(県民アンケート、新たな振興計画関連、各種分野別計画等)

●県民アンケートでは、下記の意見を確認できた。

<離島等の魅力>

「特に離島地域においては人材が都会へ流出してしまうので、離島に残ってもらえるような環境作り、仕事作り」

「他の都道府県とは異なる南の離島県という特色を生かして、自然や文化を”持続できる範囲”で県民、観光客が享受し続けられるようになってほしい。」

<ウチナーンチュとの交流>

「日本中央より、国外に目を向け、沖縄県自身が国外の人との交流や外交を進めるべきだと思う。」「沖縄は歴史的な背景もあり県民全員が無意識に自然とワールドスタンダードに近い高い多文化共生能力を持っている。この長所は沖縄が他県に大きく勝る武器として今後もしっかり残し、より発展させて日本を沖縄が牽引してほしい。」

「世界に広がるウチナーンチュのネットワークやユイマールの心は他の県にはないことだと思う」

「世界で活躍するウチナーンチュやこれから活躍していくような人材造りも合わせて必要かと思います」

<伝統文化・歴史・伝統行事の継承>

「伝統文化、伝統工芸、食文化等は昔ながらのものを絶やさずに残すと同時に新しい時代ならではの変化を加えることでより広く、多くの人に受け入れられるように残したい。昔からの伝統や文化を大切にする県民性も重要。」

「伝統芸能については県外や海外にアピールをしながら残せたら良いと思うし、しまくとぅばについては私自身も聞くことはできるが話すことはできず、本当にいつかなくなってしまう伝統の一つだと思うので、そうならないためにも継承できたら良い。」

「沖縄の綺麗な砂浜や海などの自然環境や伝統文化、工芸を子ども達が誇りを持てる状況で残したい」

「沖縄戦の証言、伝統文化などの継承をするために、記録する。普及する。」

<多様な文化やスポーツ等を活かした活動や交流>

「スポーツ空手や創作エイサーなどの伝統文化を発展させた活動を積極的に支援し、伝統文化への興味関心に繋げる方法が、現代人の心をつかみやすく、伝統文化継承者の増加にもつながると思う。」

「沖縄の伝統文化(エイサーやハーリー、三線や方言など)を子供達や若い世代に伝えて、みんながそれに触れる機会を増やすことで魅力を伝えて残していきたい。」

「しまくとぅばと琉球芸能などの文化に積極的に取り組み、修行・指導し、沖縄の文化に孕む沖縄のチムグクルを世界に発信したい。」

「観光としてだいが定着してきた沖縄と思うが、これからの外部からの集客・収益を考えるとスポーツなどのイベント開催でもアピールできればと思う。」

●新たな振興計画(素案)では、離島にいながら高い生活水準を享受できる環境づくりに向けて、離島における安全・安心な生活を確保するとともに、人々が訪れ、住みたくなる魅力ある生活環境の創出を目指すことが示されている。

また、「沖縄を結び目とするグローバルな交流ネットワークの形成」として、世界に広がるウチナーネットワークを基軸とする人的ネットワークの更なる発展と次世代への継承を図り、国籍や民族に関係なく、県民も外国人も誰もが安心して暮らせる多文化共生社会を構築することが示されている。

沖縄文化の継承・発展・普及という観点では、文化芸術の振興と文化芸術を支える環境づくりや沖縄空手の保存・継承・発展等に加え、沖縄のソフトパワーを生かした新事業・新産業の創出に関する記載も確認できる。

優先課題⑫

世界の島しょ地域における技術・経験の共有と国際貢献・グローバル・パートナーシップ

No	沖縄らしいSDGsの実現	実現に向けたアクション
1	沖縄の技術や経験を世界の島しょ地域に発信・共有することで国際貢献を実現している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境・エネルギー分野、農林水産分野、上下水道等の公共インフラ関連などの様々な分野の技術や経験を世界の島しょ地域の課題解決に活かす。
2	世界との技術交流の推進により、グローバルパートナーシップが実現している。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハワイ等のアジア・太平洋地域を始め、世界各地域との共同研究や技術交流を促進し、エネルギーや自然環境・生物多様性の保全など、様々な分野における国際交流、人材育成等を推進する。

(参考) おきなわSDGsアクションプラン(骨子)の検討におけるインプット情報

定量的情報(県民アンケート)

『【問3】沖縄の将来において、何を变えていきたいか。』の回答者数及び回答率

①島しょ地域に向けた技術・経験の共有、国際連携・パートナーシップ (n=63) 5.2%

定性的情報(県民アンケート、新たな振興計画関連、各種分野別計画等)

●県民アンケートでは、下記の意見を確認できた。

<国際貢献>

「自然を大切に暮らす(ごみ、汚染水、埋め立て等)をし、世界に発信できる魅力的な地域であってほしい。」

「ここ沖縄を、知恵と技術と県民の熱意で、世界をリードするカーボンニュートラルアイランドにしたい!」

「島で完結するエネルギー技術の開発研究とその技術を世界中の島しょ地域へ発信」

「沖縄に住む人が環境に対する意識が高く、世界に誇れる習慣や取り決めがある県になってほしい」

「観光・リゾートに活用し、世界(アジアだけでなく、欧米なども含めて)に自然環境の素晴らしさや伝統文化、平和を希求する精神を発信できるように残していければいいと思う。」

「きれいな沖縄を世界へと届けたい」

<グローバルパートナーシップ>

「多様性やゆいまる精神、平和主義を根底に大事にしながら、国内や海外とのネットワークを広げ、人・モノ・金・情報・知恵が沖縄に集まって、発展してほしい。」

「沖縄県は地理的条件を活かきもって、台湾、フィリピンなどのアジア諸国との交流した人材育成、観光資源の活用など世界的視野で独自の発展をしてほしい。」

「子どもたちに自分たち地域への愛着と誇りを持たせ海外へ向けて活躍する人材を育てることを目標に琉球列島周辺国周辺地域と児童を持つ家庭レベルでの交流を増やしてほしい」

「外国の人との交流を増やす。」

●新たな振興計画(素案)では、「本県の特性や強みを生かした技術協力や共同研究等を積極的に推進し、国際社会との共生を理念に、様々な分野における国際的課題の解決に向けた取組を強化することが課題である」としている。また、基本施策として、「アジア・太平洋地域の平和構築に貢献する地域協力外交の展開」、「沖縄を結び目とするグローバルな交流ネットワークの形成」、「世界の島しょ地域等との国際協力活動と国際的課題への貢献」を掲げている。